

新たなステージを迎えた *Bulletin of the Chemical Society of Japan* と *Chemistry Letters* —Oxford University Press との共同出版について—

ジャーナル強化 WG

日本化学会ジャーナルの 国際的地位向上を目指して

日本化学会が発刊する論文誌 *Bulletin of the Chemical Society of Japan* (BCSJ, 1926年創刊) と *Chemistry Letters* (CL, 1972年創刊) は、優れた学術成果を掲載する化学分野の国際総合誌です。長年その地位を支えてきたのは、2誌にハイレベルな研究成果をご投稿いただいた論文著者の方々の熱意と、編集・出版に携わられた多くの諸兄の努力によるものであり、改めて感謝し、敬意を表する次第です。

そうしたご尽力の結果、最近 BCSJ や CL のレベル、魅力が高まり、また科学研究費 (国際情報発信強化) の支援も得て、世界的注目度が高まったのは大変喜ばしいことです。特に BCSJ の Impact Factor は5を超えるまでに成長しています。

しかしながら、学会の学術雑誌発刊をとりまく環境は厳しさを増しており、これら2誌のさらなる国際的な地位の向上や Open Access 化 (論文の無料公開) への対応、さらには発刊の財政的負担軽減等の課題が顕在化してきていました。本会でもたびたび議論して参りましたが、ついに2022年6月戦略企画委員会内に「ジャーナル強化WG」が設置され、今後のジャーナル戦略の議論が始まりました。

その中でも特に、一層の情報発信強化や Open Access 化への対応、本会ジャーナルのさらなる発展と会員による学術出



本会論文誌 BCSJ と CL

版の推進、そして出版収支改善を目的とした海外出版社との共同出版 (協業) の可能性について集中的に検討してきました。会長、BCSJ/CL の編集委員長、学術出版の専門家、常務理事、事務局メンバー (※末尾の WG メンバー一覧参照) を含む WG で慎重に議論を重ねた結果、この度共同出版に対して1つの結論を得ることができました。すなわち、5月25日開催の第666回理事会において OUP (Oxford University Press) との共同出版が承認され、2024年1月から出版開始となることになりました。本会の論文誌2誌は新たなステージに入ったと言えるでしょう。

Open Science の推進と Open Access

読者や論文著者の方はすでにお気づきだと思いますが、学術論文の Open Access

化は世界的な流れとなっています。例えば、日本政府は2025年度以降の公的資金で行った研究に関するすべての学術論文の Open Access 化を研究者に義務付ける方針を発表しています (2023年5月10日付 読売新聞, 2023年6月5日付 日本経済新聞)。同時に EU や米国政府 (2022年5月22日アメリカ合衆国科学技術政策局/OSTP, Press Release) および英国王立化学会 (RSC) も同様の方針を決定しています。実際、昨年、RSC ジャーナルは今後5年以内にすべて Open Access 化すると宣言するなど、Open Science に向けた気運は確実に高まっています。

急速に Open Access 化が促進する学術出版界において、長期的に持続可能な事業形態を模索し、国際的にも認知される質の高い研究結果を出版できる受け皿を整え、財政的に健全に運用することが重要課題となっています。

そのため、購読費に依存しすぎない事業モデルの検討が必須である一方で、収益追求を第一としたビジネスモデルは、著者負担費用の急激な高額化を招くため、本来的な Open Science の潮流をむしろ阻害してしまう懸念があります。これに対し、本会は非営利型 Open Access モデルを出版社と協調して検討・確立していく方針を選択しました。

Oxford University Press との共同出版

OUP は“オックスフォード大学出版局”のことですが、営利追求より科学の社会共有を目指す世界的に認知された出版社であり、学術研究分野の優れた研究成果の出版とその専門知識を持つことで知られています。その経験とリソースを活用することで、本会はより広範で包括的な読者層に情報を提供し、論文の影響力と可視性を向上させることを目指しています。OUP は、編集権の独自性、著作権保持や Open Access 対応など、本 WG が共同出版のために掲げたいいくつかの条件に合致する海外出版社です。

BCSJ と CL へ投稿を予定されている方の中には、海外出版社との共同出版という新たな出版形態に不安を覚えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、これまでどおり編集権は本会が有し、実際にはこれまでと大きな変更なく論文の掲載が行われます。また、出版協業開始に伴う投稿や査読の手順に変更はありません。

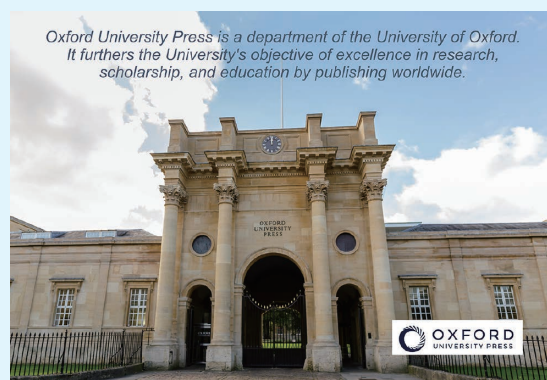
なお、この共同出版に基づく新しい出版体制による BCSJ および CL 発刊は、2024 年 1 月に開始されます。表紙デザインもこれに伴い刷新される予定です。

OUP は、日本化学会が主導する編集委員会が受理した BCSJ と CL の論文の出版を担当します。2 誌は OUP の卓越したオンライ

ンプラットフォームとデジタルツールを通じ、出版プロセスの一層の効率化と迅速化を達成する一方、網羅的なネットワークを通して世界の多数の読者の目に触れることになり、その国際的な認知度は格段に高まることが期待されます。さらに Open Access 化に関係する転換契約 (Transformative Agreement) への対応も進めてまいります。

BCSJ と CL は編集独立性を保持したまま、OUP Collection 2024 年版に収録されます。OUP 側としては、OUP Collection 収録の研究分野をさらに充実・発展させるために、BCSJ/CL が「化学」分野における強力な牽引役となることを期待しています。

今後は、さらなる高みを視野に入れ、非常に高い日本の化学力を本会から世界に情報発信するために必要なジャーナルのあり方について議論を深めていく予定です。



Oxford University 構内の Oxford University Press ビル

本会会員の皆様には、これまでも増して BCSJ と CL へ論文を投稿し、また掲載論文を引用し、2 誌の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

ジャーナル強化 WG メンバー構成

委員長：高田十志和 (学術情報部門長, 広島大学), 委員：塩谷光彦 (CL 編集委員長, 東京大学), 有賀克彦 (BCSJ 編集委員長, 東京大学), 杉野目道紀 (BCSJ 副編集委員長, 京都大学), 植村卓史 (BCSJ/CL Section Editor, 東京大学), 山口潤一郎 (早稲田大学), 林 和弘 (文科省 NISTEP データ解析政策研究室長), 澤本光男 (常務理事), 鈴木慎一 (事務局長), 中谷敏幸 (学術情報部長), 櫻田恵美子 (同部長代理), 山形裕子 (同課長) (敬称略)

〔筆頭副会長・ジャーナル強化 WG 委員長
高田十志和 (広島大学)〕

© 2023 The Chemical Society of Japan